

平成30年度

自然体験活動等長期研修

研修報告書

研究主題

授業に生かすAFPYの視点

「森のチャレンジコース」ファシリテーションの経験を生かした授業実践

山口市立大内南小学校

教諭 土 島 亮

(平成30年度自然体験活動等長期研修教員)

目 次

1 研究の意図

- (1) 研究の背景
- (2) 研究テーマ設定の理由
- (3) 研究の仮説

2 研究の内容

- (1) 研究の方法
 - ①AFPYについて
 - ②Fit 生活アンケートについて
 - ③授業実践について
- (2) 研究の実際
 - ①山口市立大内南小学校での実践
 - ②宇部市立常盤小学校での実践
 - ③その他の授業の概要
- (3) Fit 生活アンケートの結果
 - ①教師支援
 - ②友人関係
 - ③社交性
 - ④安心感

3 研究の成果と課題

- (1) 成果
- (2) 課題

授業に生かす AFPY の視点

「森のチャレンジコース」ファシリテーションの経験を生かした授業実践

山口市立大内南小学校 教諭 土島 亮

1 研究の意図

(1) 研究の背景

国立青少年教育振興機構が行った「青少年の体験活動等に関する意識調査」(図1)(平成28年度調査)の結果によると、自然体験や生活体験等が豊かな子どもは、自律性・積極性・協調性といった自立的行動習慣が身についている傾向が高く、そのような習慣が身についている子どもほど、自己肯定感が高い傾向が見られたとある。また、山口県では、小学校5・6年生及び中高生を対象とした長期自然体験活動「心の冒険・サマースクール」や、豊かな人間関係を育む体験学習法「AFPY」の実施など、特色ある体験活動が推進されている。

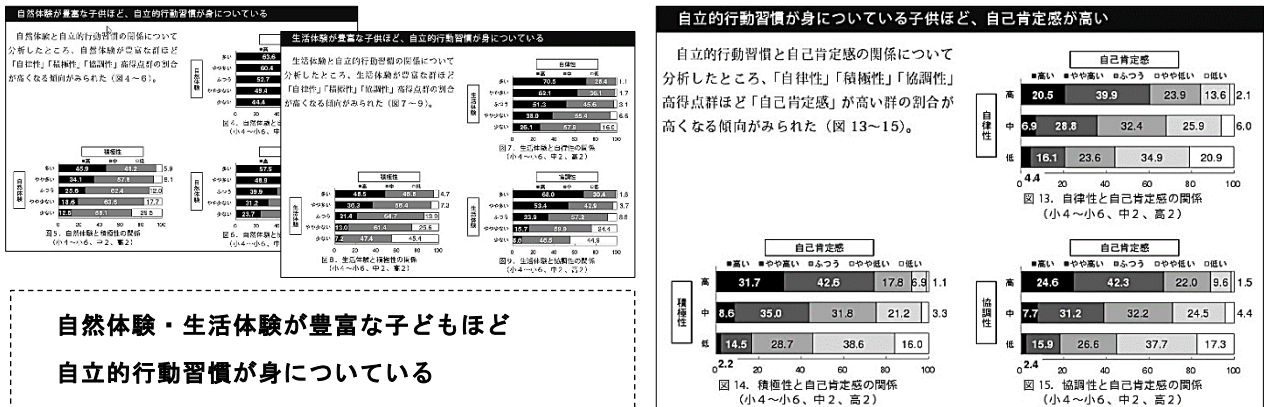


図1 国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査」

(2) 研究テーマ設定の理由

山口県十種ヶ峰青少年自然の家には、丸太やロープ、ワイヤーなどで作られた「森のチャレンジコース」(以下「森チャレ」)がある。今年度、長期研修生として入所団体と関わり「森チャレ」を用いたファシリテーションを実践する中で、集団の中での個々人の関わり方の変化や個人の成長、そして集団の変容が見られた。「森チャレ」の教育効果の高さを実感し、体験活動で取り入れているAFPYの視点が、授業にも生かせるのではないかと考えた。さらに、主体的で対話的な深い学びの必要性が叫ばれている現在、AFPYの視点を取り入れた授業実践を行うことが深い学びにつながるのではないかと考えた。



ローエレメント



ハイレlement

「森チャレ」から
学級でのチャレンジへ



(3) 研究の仮説

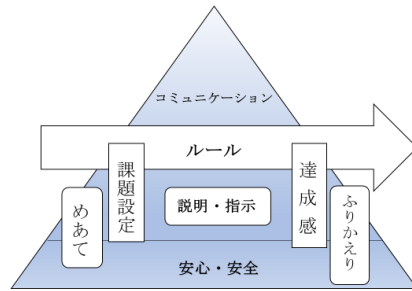
以上のことから、本研究ではAFPYの五つの視点(安心・安全、課題設定、ルール、コミュニケーション、達成感)のうち、コミュニケーションに着目し、「コミュニケーションを促す支援を取り入れた授業を行うことで学習を深めることができる」という仮説を立て、授業実践を通して検証していくこととした。

2 研究の内容

(1) 研究の方法

① AFPY について

本研究では、授業実践の中でAFPYの教育手法を用いる。AFPYとは、Adventure Friendship Program in Yamaguchiの略で、「他者とのかかわりのある活動を通して個人の成長を図り、よりよい人間関係を築くための考え方や行動のあり方を学び合う山口県独自の体験学習法」である。



出典『5つの視点で授業をつくる』

図2 AFPYの五つの視点

山口市では、平成26年に山口市教育委員会より「5つの視点で授業をつくる！－AFPYで変わる子どもと授業－」が出版され、普及が図られている。AFPYには、「安心・安全」「課題設定」「ルール」「コミュニケーション」「達成感」の五つの視点があり、図2のように示すことができる。「安全・安心」が土台となり、明確な課題設定と学習のルールを示し、子どもたちの「コミュニケーション」に期待しながら「達成感」のある授業を仕組むということを表している。また、グループでの活動を通して一人ひとりの気づきを促し、自己肯定感の向上や自信の回復を図ること、具体的な活動を通して相互の信頼関係を深め、他者への思いやりの心を育てることをねらいとしている。

② Fit生活アンケートについて

Fit生活アンケート（以下Fit）は、山口県教育委員会と山口大学が共同で作成したものである。25の質問項目（表2）に4観点で答える4段階評価である。このアンケートからは、「生活満足」「家庭支援」「教師支援」「学習」「社交性」「友人関係」「安心感」の7項目について適応感を測ることができる。このうち、コミュニケーションに関する項目を「教師支援」「友人関係」「社交性」「安心感」の4つと捉え、数値の変化に着目した。

側面	番号	質問項目
生活満足	1	楽しく毎日を過ごしている
	8	学校生活に満足している
	15	毎日が充実していると感じる
	23	学校がなんとなくつまらない
家庭支援	5	家に帰るとほっとする
	12	わたしの家族は仲がよいと思う
	19	家にくつろげる場所がある
教師支援	3	困った時に助けてくれる先生がいる
	10	わたしに声をかけてくれる先生がいる
	17	先生は生徒に平等に接してくれている
	24	わたしのことを分かってくれる先生がいる
学習	7	授業についていけないのではないかと不安になる
	14	授業の進み方が早いと感じることが多い
	21	努力したわりに成績がのびないと感じる

側面	番号	質問項目
社交性	6	友達が話している所に気軽に入ることができる
	13	気まずいことがあった相手と仲直りできる
	20	友達にやってもらいたいことをたのむことができる
友人関係	2	わたしのことを分かってくれる友達がいる
	9	うれしいことをいっしょに喜んでくれる友達がいる
	16	なやみを話せる友達がいる
	22	困った時に助けてくれる友達がいる
安心感	4	教室に入りづらいことがある
	11	クラスにいづらいつと感じることがある
	18	かげで友達に何を言われているか不安である
	25	クラスにいる時まわりの目が気になって落ち着かない

表1 7つの側面と質問項目

③ 授業実践について

原籍校である山口市立大内南小学校の4年生と、宇部市立常盤小学校の6年生、各クラスに協力を依頼し、道徳、国語、算数の順で1単位時間ずつ、3単位時間の授業を行った。授業は、大内南小学校で10月4日、9日、17日の3日間、常盤小学校で10月16日、23日、30日の3日間に行った。また、授業初日の朝にFitの1回目を実施し、最終日の授業後に2回目を実施した。

授業では、コミュニケーションを促す支援として次の四つを行った。

- | | |
|---|---------------------------------|
| ア | 子どもの様子を見取り、グループでの話し合いを促す |
| イ | 友だちの意見に関連させて話すように促す |
| ウ | 自己評価の場を設け、交流を促す |
| エ | ふりかえりを交流させる場を設け、自他の変容に対する気づきを促す |

(2) 研究の実際

【山口市立大内南小学校の実践では支援ア、イについて、宇部市立常盤小学校の実践では支援ウ、エについて述べるとともに、それぞれ「森チャレ」との関連を□で示した。】

① 山口市立大内南小学校での実践（指導案①）

山口市立大内南小学校での授業3日目、算数の面積導入の時間に、三つの花壇の広さの比べ方を考える学習を行った。どうしたら比べられるかという問いかけに、いくつかの考えが出された。直接比較の考えが出てきたところで、花壇を模したプリントを渡し、具体的操作を促した。

紙を渡され、じっと考える子、ハサミを使って切り始める子がいる中で、隣同士で話をする子どもが見られた。



元気と好奇心いっぱいの子どもたち

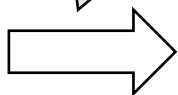
「森チャレ」では活動を時間で区切るのではなく、表情や行動から子どもやグループの状態を見取り、言葉がけを行ったり行動を促したりする。【支援ア】

授業では、子どもが話し合う必要を感じていることを見極めてから、「話し合ってごらん。」と投げかけた【支援ア】。すると、あちらこちらで自分の考えを伝え合う姿が見られるようになった。

見極めて促す



様々な学びの様子



自分の考えを伝え合う様子

(1) ねらい

- ① 広さ比べに関心をもち、くらべ方を考えようとしている。
- ② 数値化してくらべる方法を考えることができる。

(2) 準備 花壇の絵 (掲示用)、ワークシート、ホワイトボード、水性マーカー

(3) 展開

展開	子どもたちの学習活動と予想される反応	指導上の留意点
導入	1 本時の学習課題を確認する。 ・花壇は3つあるのだね。 ・広さによって赤、白、黄の花を植えるのだね。	○課題を提示する際には子どもたちがより必然性を感じられるようにする。【コミュニケーション】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 広 さ の く ら べ 方 を 考 え よ う </div>		
展開	2 広さのくらべ方を考える。 ・紙を切って重ねてみよう。 ・「い」が一番せまいね。 ・「あ」と「う」はどちらが広いのかな。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 2px solid blue; padding: 10px; width: 150px; height: 100px; text-align: center; line-height: 100px;">あ</div> <div style="border: 2px solid blue; padding: 10px; width: 150px; height: 100px; text-align: center; line-height: 100px;">い</div> <div style="border: 2px solid blue; padding: 10px; width: 150px; height: 100px; text-align: center; line-height: 100px;">う</div> </div>	○くらべ方が思いつかない子どもには長さの学習を想起させ、直接比較と間接比較があることを押さえる。 ○花壇の縮図を準備し子どもが具体物を用いながら花壇の広さ比べができるようにする。
終末	3 班で広さのくらべ方をまとめ、発表する。 ・重ねて比べると「う」の方が残りが広いよ。 ・マス目を数える方法もあるね。 ・○さんの説明はよく分かったよ。 ・今度は私たちが説明するよ。 4 周りの長さを測っても広さは分からないことを知る。 ・「あ」と「う」はどちらも16マスだね。 ・不思議な気がするな。 ・広さは図形の中にマス目がいくつあるか数えるとよいのだね。	○子どもの様子を見ながら机を班の形にするように促し友だちと相談しながら学習を進めることができるようにする。 【コミュニケーション】
	5 学習をふりかえる。 ・数字で表すと正確に広さが分かるね。 ・いろいろな広さを調べてみたいな。	○「広さ」という言葉を使ってふりかえりを書くことで学んだことを表現しやすくする。

○ 評価

広さをくらべる方法を考えることができたか。(行動観察・ワークシート)
 数値化することのよさを感じることができたか。(ふりかえり)

○ AFPY の視点

本時では、5つの視点(安心・安全、課題設定、ルール、コミュニケーション、達成感)のうち、特にコミュニケーションについて留意して行う。(指導案中の【コミュニケーション】)

子どもが発言するときには、【支援イ】を行った。

「森チャレ」では、個人やグループのチャレンジを支え、目標を達成するために、子どもたち同士の話し合いが必要になる。目標達成に向け、アドバイスしたりアイデアを出し合ったりしていく。【支援イ】

授業では、「紙を重ねると大きさを比べることができます。」という発言に、次の子どもが「〇さんに付け加えると…」と話し始めた。さらに、「紙を重ねてはみ出したところを折り曲げると、どちらがどれだけ大きいか分かります。」と発表していった。このように、友だちの発言に関連させて話す姿が見られるようになっていった。

関連させて話す



② 宇部市立常盤小学校での実践（指導案②）

道徳の時間に「お茶の心」という題材で授業を行った。

【支援ウ】として「日本の伝統文化はあなたにとって身近ですか」と、授業の始めと終わりに問いかけた。



活発で温かい雰囲気のある子どもたち

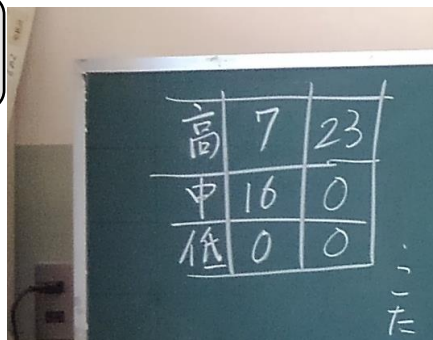
「森チャレ」では、子どもたちの様子を見取る際にクイックチェックという活動を行う。その日の体調ややる気をたずね腕の角度でパーセンテージを表していく。そうすることで、子どもは自分の今の状態を認識するとともに、友だちの様子を知ることができる。そして、自己評価をもとにした交流へとつながっていく。【支援ウ】

本時では、授業の始めに身近だと答えたのは7人だったが、授業の終わりには全員が身近だと答えた。この結果に、子どもたちは驚いて声を上げた。そこで、自分の見つけた日本の伝統文化について、近くの友だちと話す時間を取り、交流を促した。

自己評価する



クイックチェックの様子



クイックチェックの結果

○ 主題名【C—(6) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】

指導案②

資料名 「お茶の心」 (光文書院「ゆたかな心」)

(1) ねらい 私たちの生活に息づいている伝統文化について考えることを通して、それらを大切にしようとする態度を養う。

(2) 準備 挿絵(掲示用)、ふりかえりプリント

(3) 展開

展開	子どもたちの学習活動と予想される反応	指導上の留意点
導入	1 自分にとって伝統文化とはどのようなものか考える。 ・古いものという感じがするよ。 ・和風なものという感じがするなあ。 ・思いついたものを書いておくのだね。 2 資料「お茶の心」を聞く。 3 もてなす心とはどのようなものか話し合う。 ・お花を生けることももてなしなのだね。 ・和菓子の種類が多いのは、意味があるのだね。 ・お茶にはいろいろな作法があるようだよ。	○伝統文化と自分とのかかわりを意識しやすいように、かかわり度を3段階の手の角度で示すように促す。 (クイックチェック) 【コミュニケーション】 ○作法と四百年の歴史に着目することで、年月を経て茶道が残っていることとそれが先人の努力であることに気付きやすくする。
展開	生活の中にあるもてなす心を見つけよう	
終末	4 生活の中にあるもてなす心について話し合う。 ・家でもお花を生けているよ。 ・お客さんが来られるときには、丁寧に掃除をするよ。 ・○さんの家では、座布団を用意するのだね。 5 伝統文化にはどのようなものがあるか考える。 ・衣食住で考えると見つけやすいのだね。 ・着物や浴衣は今でも着ることがあるよ。 ・日本的なものが伝統文化に入りそうだよ。 ・日本食は世界からも注目されているよ。 ・伝統文化は身の回りにもたくさんあるのだね。 6 学習をふりかえる。 ・伝統文化のイメージが変わったよ。 ・自分にも伝統文化をつないでいく役目があるのだね。	○一人で考えた後は三人に話すように促すことで、共感したり情報を得たりしやすくする。【コミュニケーション】 ○子どもの様子から必要であれば机を班の形にすることで友達と相談しながら学習を進めやすくする。 ○「伝統文化」という言葉を使ってふりかえりを書くことで学んだことを表現しやすくする。

○ 評価

私たちの生活の中にある伝統文化に気付き、それらを大切にしようとする気持ちをもつことができたか。(発言・ふりかえり)

○ AFPYの視点

本時では、5つの視点(安心・安全、課題設定、ルール、コミュニケーション、達成感)のうち、特にコミュニケーションについて留意して行う。(指導案中の【コミュニケーション】)

さらに、【支援エ】を行い、ふりかえりを話したり書いたものを見せたりして交流できるようにした。

「森チャレ」では、ふりかえりを交流させることによって、グループや友だちの変容に気付くことが多い。【支援エ】

授業では、そうすることにより、下の子どもの感想のような自分の変容への気付きが見られた。

今回は、友だちの変容についての気付きまでは見られなかったが、ふりかえりを交流させることは、個人の成長を認め励ますことや、次の活動への意欲付けにつながり、教室でも効果が期待できると感じている。



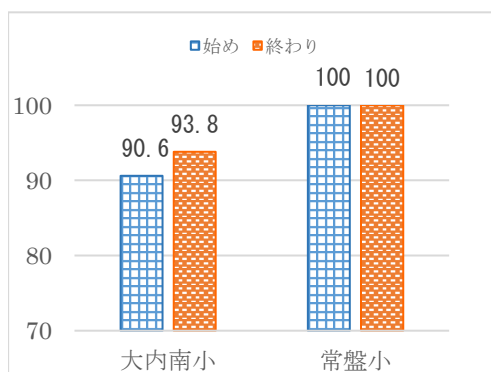
ふりかえりを交流する様子

「私は日本文化について考えたことがなかったけれど、〇さんが言っていたように、身の回りにはいろいろな日本文化があることが分かりました。」（ふりかえりの場面から）

③ その他の授業の概要

学校	教科	単元名・題材名	ねらい
大内南小学校	道徳	全校遠足とカワセミ 「新しい道徳」 東京書籍	よくないことと思いつながりながら流されてしまう弱さを考えることを通して、正しいと判断したことは自信をもって行おうとする態度を養う。
	国語	慣用句を使ってみよう 光村図書	長い間使われてきた慣用句の意味を知り、生活の中で使うことができる。
常盤小学校	国語	生活の中の言葉 6年「創造」 光村図書	敬語を適切に使ったり、世代間で言葉遣いが異なることに気付いたりすることができる。
	算数	変わり方を調べて (1) 「わくわく算数6」 啓林館	①二つの変化する数量に着目しながら表を進んで使おうとし、そのよさに気付くことができる。 ②表から変化の規則性を考えることができる。 ③表を使って問題を解くことができる。

(3) Fit 生活アンケートの結果

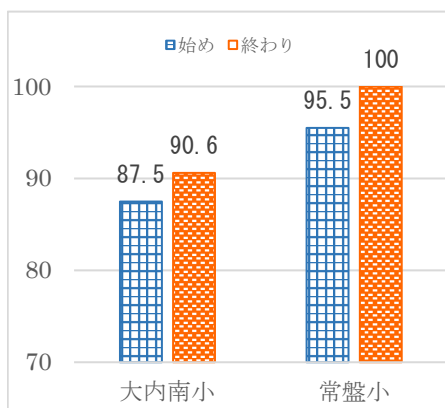


教師支援

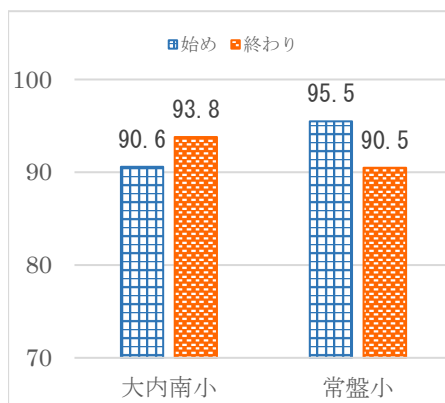
①教師支援

質問項目では、大内南小学校では「先生は生徒に平等に接してくれている」の項目が、常盤小学校では「困った時に助けてくれる先生がいる」の項目が最も大きく上がっていた。

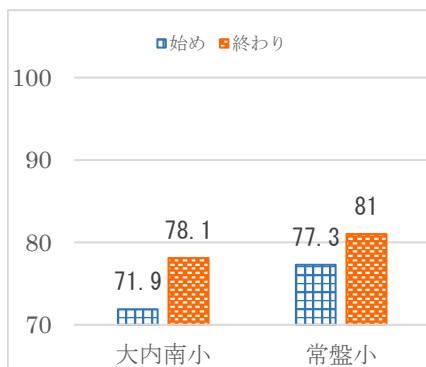
どちらの学級の子どもも、教師の問いかけやかかわりへの反応がよく、教師の話を素直に聞こうとする姿が見られた。



友人関係



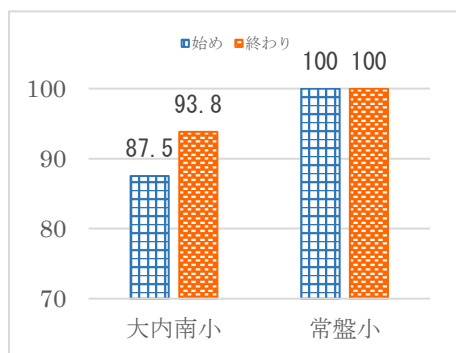
社交性



安心感

3 研究の成果と課題

(1) 成果



学習

② 友人関係

質問項目では、大内南小学校では「悩みを話せる友だちがいる」の項目が、常盤小学校では「困った時に助けてくれる友だちがいる」の項目が最も大きく上がっていた。

学習時に子ども同士をかかわらせる活動を意図的に取り入れ、「〇人に話そう」「お互いに聞き合おう」「まだ話していない人と話そう」等の投げかけをした。このようなかかわりを繰り返していく中で、楽しさや分かりやすさといった、かかわりながら学ぶことの効果を感じている姿が見られた。これは、社会性や安心感を育むことにもつながると考える。

③ 社交性

質問項目では、大内南小学校では「気まずいことがあった相手と仲直りできる」の項目が最も大きく上がっていた。常盤小学校では、質問項目の間に差は見られなかった。

常盤小学校で数値が下降していたが、授業中の子どもたちのかかわりは、普段のように活発に行われていた。

④ 安心感

質問項目では、大内南小学校では「陰で友だちに何を言われているか不安である」の項目が、常盤小学校では「教室に入りづらいことがある」の項目が「あてはまらない」に変化しており、さらに、どちらの学級でも「クラスにいる時まわりの目が気になって落ち着かない」の項目が「あてはまらない」に変化していた。

「僕は、伝統文化は身近にあって、だれかが守りつがないと消えてしまうものなのだと思います。僕は、伝統文化がなくならないために、たくさんの人に宇部まつりなどを伝えて、伝統文化が続いていこうにしたいです。」(子どもの感想から)

本研究では、学習を深めることを目指し、コミュニケーションを促す支援を取り入れた授業を提案し、実践した。

Fitの結果を見ると、子どもたちがよりよく変容してきていることがうかがえる。また、Fitの学習の項目（P-3表1及びP-9参照）では、どちらの学級でも数値の上昇が見られた。さらに、子どもの感想に見られるように、学習の前後での変容が多く見られた。

これらのことから、コミュニケーションを促す支援を取り入れた授業を行うことが、学習の深まりへとつながったと考える。

(2) 課題

以上のことから、次の二点を今後の課題としたい。一つ目は、引き続きコミュニケーションを促す支援を取り入れた授業を行っていくことで、学習の深まりから学力の定着へとつなげられるようにしていくことである。今回の研究から、コミュニケーションを促す支援を取り入れた授業を行うことは、学習を深めることにつながると分かった。このような支援をどの授業でも日々行っていくことで、学力の定着を図っていきたい。二つ目は、研究のきっかけとなった「森チャレ」の経験を生かしていくことである。例えば、Fitの結果にも見られるように、安心感の項目は他の項目に比べて数値が低くなっている（大内南小学校では78.1%、常盤小学校では81.0%）。そこで、学校生活の土台となり、ルールやコミュニケーションが成り立つ前提となる安心感について配慮していく。具体的には、「森チャレ」の経験を生かし、子どもたちの様子を見取り、よりよい人間関係をつくっていくことを通してお互いを尊重する態度を培い、子どもたちの心と体の安心・安全につなげていきたい。

《お礼》

今年度、このような貴重な研修の機会を与えてくださった山口県教育委員会、本研究に際してご協力いただいた宇部市立常盤小学校、山口市立大内南小学校、山口県十種ヶ峰青少年自然の家の職員の皆様をはじめ、ご指導いただいた全ての方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。

【参考文献】

- ・藤村寿、『AFPY入門「やまぐちふれあいプログラム」の理論と実践』、宮崎製版、2005
- ・プロジェクトアドベンチャージャパン、『グループのちからを生かす』、みくに出版、2005
- ・金森俊朗、『子どもの力は学び合ってこそ育つ』、角川書店、2007
- ・ダニエル・ゴールマン、『EQ 心の知能指数』、講談社、1996
- ・岩瀬直樹、『子どもたちが主役！プロジェクトアドベンチャーでつくるとっても楽しいクラス』、学事出版、2013
- ・ピーター・グレイ、吉田新一郎、『遊びが学びに欠かせないわけ 自立した学び手を育てる』、築地書館、2018
- ・中西進、『日本人の忘れもの』、ウェッジ文庫、2007
- ・諸澄敏之、『みんなのPA系ゲーム243』、杏林書院、2005
- ・藤井恵美子、『AFPYの手法を活用した人間関係づくりが自己意識に与える影響』、2014
- ・平野吉直ほか、『野外教育情報②』、公益財団法人日本教育科学研究所、2014
- ・山口県教育委員会、『5つの視点で授業をつくる』、明治図書、2014
- ・山口県教育委員会、『山口県教育推進の手引き』、2018

- ・独立行政法人国立青少年教育振興機構国立山口徳地青少年自然の家、「平成 21 年度独立行政法人国立青少年教育振興機構特別事業報告書」、2010

【参照ホームページ】

- ・山口県教育委員会、「AFPY の推進」

www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50400/afpy/afpy.html

- ・独立行政法人国立青少年教育推進機構、「青少年の体験活動等に関する意識調査」（平成 28 年度調査）

www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/130/